

分子研を去るにあたり

東京工業大学資源化学研究所教授 藤井正明
(前 電子構造研究系電子状態動力学研究部門教授)

平成15年4月より東京工業大学・資源化学研究所に異動しました。9月末で分子研との併任も終了し、完全な異動となります。6年半に渡り、前所長・伊藤光男先生、現所長・茅幸二先生、そしてレーザーセンターと電子構造の皆さんなど、皆々様に変にお世話になりました。心より御礼申し上げます。教授の異動は、普通の組織では滅多に起きないことと思いますが、私と同じく教授で異動した渡辺芳人さんが書かれていた事に全く同感で、分子研の活力の源は教授も含む人の流動性と思います。助手にだけ法律に則った任期制を適用していますが、分子研にあっては教授も新しいことに挑戦し、そして機が熟した時には大学に戻る姿が健全であるように思いますし、一般の大学と比較して大きな校費を使わせて頂く意味と思います。

研究のことはさておき、岡崎生活も6年に及ぶと今も時々、あれが、と思出す物があります。これがことごとく食べ物か飲み屋関係という事から私の岡崎生活の実態はおわかりになると思います。横浜で身近に見つけられない食べ物は、岡崎名物のうどん(当然!)に加えて韓国料理です。普通の住宅地に手頃な値段で本格的な韓国料理屋が数軒もあるのは岡崎新名物の様に思います。夜遅く実験を終えた後、皆で出かけてプルコギ、サムゲタン、チヂミを食べながらビール片手に研究のことから四方山話まで話し込んだ事が大変懐かしい思い出です。もちろん、定番の阿*、旭**、王*などの店も研究生活を支えてくれた(?)重要な店です。単身赴任だからできたことですが、全員独身の研究室のメンバーとは文字通り同じ釜の飯を食った事になります。体

に良いかどうかは別として、これも分子研生活の重要な活力源であったと思います。

最後ですが、こんな同じ釜の飯を食った共同研究者の名前を挙げて心より感謝申し上げたいと思います。研究成果は共同研究者の昼夜を問わぬ努力と才能によるものです。助手の酒井誠君(現東工大助手)、博士研究員の石内俊一君(現JSTさきがけ研究員)、渡邊武史君(現東工大リサーチアソシエイト)、佐伯盛久君(現原研)、早稲田大学の吉野り子さん(現三菱化学)、鈴木一成君(現ヤマハ)、横山裕君(現富士フィルム)、吉田圭吾君(現大日本印刷)、そして池滝慶記さん(オリンパス光学先進研)、林俊一さん(新日鐵先端研)、鈴木哲也君(日鐵テクノロジー)、草野英昭君(島津製作所)、大変ありがとうございました。そして分子研の皆さん、これからもよろしく願います。